おたる西別院だより

降誕会号

親鸞聖人の御影（小樽別院本堂）

八百二十九回

親鸞聖人 降誕会

◆場　所　小樽別院本堂

※受付にて記念品をお渡し致します。
※書・絵・華を展示します。

◆日　時

5月19日(日)

11:30　初参式
12:00　お斎（うどん・おでん・お茶席）
13:00　稚児行列
13:30　宗祖降誕会
　　法話（降誕会に引き続き）
　　お楽しみ会（法話に引き続き）
14:30　子供ゲーム大会（若松一丁目会主催）

5月19日(日)は月忌参りをお休みさせていただきます。

降誕会

輪番　片山晃英

私たち浄土真宗の門信徒として大切な行事のひとつに宗祖親鸞聖人のご誕生をお祝いする「降誕会」がございます。

聖人のご誕生は、歴史上の人物としての一人の宗教家が生まれたということではありません。それは私が人間としてこの世に生を受け、自分というものを知り、何のために人として生まれてきたかという、人生の意義を明らかにして下さった大切なお方のご誕生であります。

親鸞聖人は、師源空上人に出会われた喜びを、次のような言葉で述べられています。「曠劫多生のあひだにも　出離の強縁しらざりき　本師源空いまさずば　このたびむなしくすぎなまし」《長い間いくたびも迷いの生を受けて、未だかつて生死（まよい）の世界を離れ解脱（さとり）を得る強い因縁を知らなかった。しかるに今、源空上人のおかげによって、知らせて頂いた。源空上人が我が国に生まれ出でて、しかも今生で、じきじきこの親鸞に遇うことがなかったら、未来永遠にわたって、今までのようにまよいの世界にむなしく流転し沈没してゆくであろう。》

比叡の山に登る前にも、又登ってからも、源空上人が念仏の道を人々にすすめられていらっしゃることを、あるいは知っておられた宗祖が、吉水の草庵の前を通りすぎながらも、なかなか遇えなかった宗祖が、六角堂の観音さまの導きによって、ついに法然上人に遇い、念仏往生の道のみ教えを承るに至った喜びを述べられているご和讃でありましょう。

親鸞聖人にとって源空上人（後の法然上人）との出会いは最も重要な出来事であったのです。それと全く同じ事を、私が親鸞聖人との出会いの意味として感じることが大切であります。

なぜならば、自分を見つめれば見つめるほど煩悩の止みがたい私に、その限りなく悲しい凡夫こそが阿弥陀如来様のお目当てですよとお示し下さったのが親鸞聖人であるからです。かつて仏教はエリートでなければついていけないように思われていました。つまり煩悩を断ち切るための修行が成仏への道であったのです。しかし聖人は煩悩を断ぜずして涅槃を得る道があることを教えて下さいました。涅槃を得るということは涅槃を悟ったことではなく、煩悩を抱えたままで、涅槃への道に立たして頂けるということなのです。煩悩に眼さえられて、仏のみ光りはみえない私ですけれども、如来の大悲は常に私を照らし続けて下さるのです。

別院では、五月十九日（日）《本来は五月二十一日》は、念仏成仏の道を教えて下さった親鸞聖人の誕生日です。「本師源空いまさずば……」の聖人の思いを、私たちは「宗祖親鸞いまさずば……」と受け止めさせて頂き、別院の降誕会にお詣りしましょう。

合掌

連続 百日参拝のお知らせ

今年も例年の如く晨朝百日参拝を行います。
皆様お誘い合わせの上御参拝下さいませ。

☆5月1日(水)～8月8日(木)☆

毎朝6時半から一時間程度です。

特に申し込みなどは必要ありません。
お気軽にお参りして下さい。

●3分間の心のともしび
小樽別院 テレホン法話
24時間いつでもどうぞ
TEL 27-1616

別院フォトクラブ 思い出編

▲一日研修旅行一班

降誕会お茶席

一日研修旅行二班▶

降誕会稚児行列

次回もお楽しみに。

御葬儀　年中無休　24時間受付

有限会社 小樽永楽社

小樽市長橋4丁目2-23

31-4949（代）

製造直売の店

仏壇・仏具・お宮・神具

片桐仏壇店

小樽市入舟4丁目5番入舟大通り

TEL（0134）23ー1309（代）

お稚児さん募集

今年も、19日（日）の降誕会に先立ち稚児行列をとり行います。対象は三歳以上の幼児で、参加費は無料です。

このご縁にご家族一緒に、降誕会に足を運んでください。申し込み等詳しいことは、別院までお問い合せ下さい。

初参式

当別院では、今年も親鸞聖人の降誕会にともない初参式をとりおこないます。

対象は、生後百日ぐらいから三歳までの幼児で式は短時間で終わります。記念品等も用意させて頂いておりますので、お気軽にお申し込み下さい。お申し込みは、別院寺務所（TEL 22－0744）、または別院職員まで。

マンガ仏事入門〈仏具の巻〉

ご案内

お晨朝
毎日　午前6時30分

常例布教
毎月7日～11日　午後1時30分
13日～16日　午後1時30分

仏教青年会
毎月1回　午後7時30分

仏教婦人会
毎月15日　正午（おときあり）

仏教壮年会
毎月6日　午後7時

おつとめしま専科!
毎月2回（火曜日）　午後2時

ボーイスカウト
毎月1回（土曜日）　午後2時

日曜仏教講座
毎月1回（第3日曜日）
午前9時30分

十九日講
毎月19日　正午（おときあり）

各説教所の案内

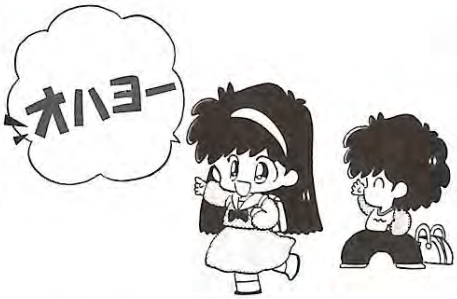
●奥沢説教所
樹心会　5日　午後7時
唯信講　10日　正午

●若竹説教所
彰心会　7日　午後7時

●緑説教所
無量講　9日　午後6時

●新光説教所
法友会　13日　午後6時

挨拶



「一言、ご挨拶を申し述べます」―儀式などのときに、よく聞かれる言葉です。挨拶状などという手紙が来たりもします。ちょっとすごんで「挨拶してやるぞ」とか、冷たく「ご挨拶ですね」とか、挨拶は今では日常用語になってしまいました。

しかし、挨拶という言葉は、もともと仏教語なのです。挨は「押す」こと。拶は「せまる」という意味から、挨拶は、前にあるものを押しのけて進み出ることをいいます。禅家では、「一挨一拶」といって、師匠が門下の僧に、または修行僧同士があるいは軽く、あるいは強く、言葉や動作で、その悟りの深浅を試すことがあります。これが挨拶なのです。

そこから転じて、現在のように、やさしく、応答とか返礼、儀礼や親愛の言葉として使われるようになりました。

日時：毎月第3日曜日
午前9時30分～（約一時間）

場所：小樽別院

おつとめをわかりやすく解説、費用はかかりません
お気軽にどうぞ。詳しくは磯村まで

十人十声

●毎日の生活を振り返って…

西川　達恵

本願寺二十一代明如上人の二女で、婦人教化と奉仕活動につとめ、昭和三年に四十二歳の若さで生涯を終えられた九條武子夫人は「見ずや君明日は散りなむ花だにも力の限りひとときを咲く」とうたわれました。明日は散りゆく花も、今の命を精一杯に咲かせているということです。又、八木重吉さんは「虫が鳴いているいま鳴いておかなければ　もう駄目だというふうに鳴いている　しぜんと涙をさそわれる」とうたわれました。冬をまたずに死にゆく虫が、秋たけなわの頃に命の限りをつくして鳴いているのを聞き、感じた思いを詩にされたものと思われます。さて、花や虫と同じく限りのある命を生きている私達の日暮らしはどうでしょうか。自分自身の生活を振り返るとき、ひたすら純粋に物事に取り組むことを怠けていることが多いように思います。二度と繰り返すことのできない「今」を精一杯に生きぬきたいものです。

●自分をみつめる

武藤　三孝

私たちは、科学文明の恩恵により物に恵まれ不自由なく生活していますが、最近は不況の風が吹き荒れ、政治・経済・教育・医療・宗教・生活のあらゆる面で、先行きが不透明な時であります。私たちはこうした逆境に出会うと、時代が悪い、環境が悪い、政府が悪いと周囲にその責任を転嫁し、決して自分に眼を向けようとしないようです。

仏教詩人の榎本栄一さんは「私を覗く」と題して詩を詠んでいます。「私の中覗いたらお恥ずかしいが、だれよりも自分がかわいいというおもい、コソコソ動いている」

深く思いみますと、誰れでも自分が一番いとしいのでしょう。しかし、そのことにより少しでも苦しい場面に出会うと、わが身可愛さの自分の身勝手さが愚痴をこぼし、相手に恨み心を抱くことになります。

親鸞聖人は、阿弥陀如来様の慈悲の光の中で深く自分自身の身勝手さをみつめられ、また、そのような自分をいつも心配していて下さる阿弥陀様の広く深いお心を喜ばれ、「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」とすべての人々の本当の幸せを願いながら、人生を生きられました。

私たちは、いつも自分をさておいて周囲にわが身の不遇の責任のすべてを転嫁している限り、決して本当の幸せは訪れて来ないでしょう。　合掌

●療養に苦しむ人に

村上　隆昌

ある方が私は長い間の病気で、ずっと療養生活を続けています。病院にはこうした人がたくさんおり、世間からへだてられ、肉親から離されて、人生の吹きだめのような気がします。世間には健康で自由に遊びまわって楽しんでいる人もあり、同じ人間に生まれながら、どうしてこんなに大きな違いがあるのかという質問でした。

それについて中国の詩に「春色高下なし　花枝自ずから短長」という言葉があります。春の光りはわけへだてなく照らしているのに、その中に咲いた花の枝には長いものや短いものや、さまざまな違いがあるのはどういうわけでしょう。という意味で、それは結局それぞれの花の性質から然らしめたいという他はないでしょう。それを仏教の言葉で「業」（ごう）といっているのです。しかしここで業だから仕方がない、あきらめてしまいなさいと言っているのではなく、業は縁によって転ずる（変えられる）のですから、内と外からいろいろな方法を加えて、出来るだけ良くするように努力してこそ、理性を持った人間の生き方だという事ができるのではないでしょうか。

病気を機縁として、外に向いている2つの目を、心の中（内）に向けていくことこそ本当の人生がひらけてくるのではないかと思います。

●冬の落とし穴

磯村　真一

「小樽の冬は、雪が多くて大変なんだぞ！」小樽に赴任して初めて冬を迎える阿部君と猪口君に脅しをかけたつもりだったが、あまりにも雪が少なかったので二人共全く驚いていない様子だ。

あれは忘れもしない、私が赴任して初めての冬。大きくて重たい長靴を買い、それを履いてお参りしていた時に事件は起こった。あるご門徒の家に近くのに車を降りて、一人しか歩けないような小路に入った。地図を見ながら家を探していると、突然手前の家の犬が足下まで突進してきて吠えたのである。ビックリした私は、慌てて小路の端の方へ避けた。次の瞬間、何と左足が膝まですっぽりと埋まって抜けなくなってしまったではないか。犬は吠えるし足は抜けない、結局騒ぎを聞きつけたご門徒さんに助けていただいた。

八年前のその長靴は、今でも現役である。

●明日ということ

梶　純信

「仏法には世間のひまを闕きてきくべし。」

これは仏様の教えは、世事に費やす時間を割いて聞きなさいという蓮如上人の厳しいお言葉ですが、我が身に引きあてて考えればどうでしょうか。世事がひまなときに聞こうという考え方がほとんどだと思います。

しかし、蓮如上人はこのような態度を「あさましきことなり」といさめられ、「仏法には明日ということはあるまじき」とお示し下さっておられます。明日はあっても、この私に明日を保証してくれるものは何一つあり得ないのでありますが、なかなかわがことと受

け止められないのが私の本当の姿であります。『古今集』に在原業平の和歌で次のような歌があるそうです。

つひにゆく道とはかねて聞きしかど
昨日今日とは思はざりしを

よくよく味わえばまさしく私自身の姿であることに気づかされる歌であります。

親鸞聖人もまた

明日ありと思う心の仇桜
夜半に嵐の吹かぬものかは

という歌を残されております。

「仏法には明日ということあるまじき」という蓮如上人のおことばを重く受け止め、しっかりとお念仏のおしえを聞きひらいていかなければならないと思います。

●仏法を味わう

温井　卓生

仏法を聞くとは、経文を覚え、偉い先生の話を覚えることではありません。経文のお言葉が、今、ここにいる私に何を教え説いてくださっているのか、偉い先生のお話は、私に何を問いかけてくださっているのかと、経文の一言一言を、先生のお話の一つひとつを、自らの身にあてて味わうのが仏法聴聞なのです。お経にこう書いてあるから間違いない、先生がこう言われたのだから間違いないという聞き方は、仏法を聞いたのではなく、ただ覚えただけです。蓮如上人は、食物でも、しっかり噛んでその味を十分に味わうことが大切であるということを教え、うのみせよと教えてはならないと教えてくださったのです。そして、仏法をしっかり噛みしめて味わえば罪の深い人間だから、悪人だからといって、勝手気ままな放逸無慚の生活などできるはずがないといわれました。

●朝夕のおつとめ

村田法道

忙朝、山　我を見る　閑時
我　山を見る

忙時というのは、仕事に追われ、夢中になって、忙しい忙しいと言っている時です。そんな時には山を見ることも忘れてしまっています。しかし山はそんな私を静かに見守ってくれます。ふと閑になって心にもゆとりが出来た時、またしみじみと山を見てなぐさめられ、山はいつも心なごむものとなってくれます。私の人生とは、仏様のことも忘れて、煩悩の日暮しに追われている。しかし仏様はいつも慈眼をもって見守っていて下さいます。

大悲ものうきことなくて、常に我が身を照らすなり。

忙しい中にふと気づいて如来様の慈悲をよろこびお念仏をとなえさせて頂く。更に有難いことであります。一日のうち朝なり晩なり仏様の前に座っておつとめをさせて頂く。仏様の前に座って合掌礼拝する時、仏様は必ず生き生きと答えて下さいます。そこに生きぬく力をあたえて下さいます。（『風の声・竹の声』より）

●ラベル

猪口　大悟

何年か前に『脳内革命』という本が出版され、ベストセラーになったことがありました。私のその本を読んだことがないので、あれこれと批判するつもりはありませんが。どこかのお医者さんが書いたものであるということを覚えています。

しかし、後から聞いた話なのですが、この本とほとんど同じ事が書かれた本が半年前に違う人によって出てたらしいのですが、全く売れなかったそうです。同じ内容であってもお医者さんの書いたものであれば信用できると言うことなのでしょうか。

私たちは先入観による判断に安易に頼ってしまう傾向があります。一昔前で言えば「国内産だから安全だ」という風にです。しかし、それではものの本質を見落としてしまいます。

先入観にとらわれず、ラベルの下にある本質を見る目を養っていきたいものです。

●甘いものは別腹？

相馬　早苗

よく、お腹いっぱいご飯を食べた後でも、おいしそうなデザートを目にしてしまうと、不思議と〝別腹〟に収まってしまうものです。これが私の太る原因なのでしょうか。デザートとは限らず、自分の好物や食べたい物が側にあると何故か手が伸び、満腹にもかかわらず自然と口にしていませんか？

実は胃は「感情の臓器」と呼ばれるほど気分に左右され、食べたいもの、欲しいもののためなら、いくらでも胃は広がってしまうそうです。しかし、これは人間だけで、野生の動物たちは、満腹の時にどんなに大好物を差し出されても絶対に食べないそうです。

私も、野生の動物たちのように〝別腹〟がなければ、太る心配はないですよね。

●くしゃみ

渡部　恵

花粉症の季節です。くしゃみをしている人を見かけませんか？くしゃみは、「くしゃん」とするからだと思っていましたが、面白いお話を見かけましたので紹介します。ある時、お釈迦さまがくしゃみをしました。するとお弟子達が一斉に「クサンメ」と唱えて師の健康を願ったそうです。「クサンメ」は、古代インド語で長寿という意味です。インドでは、くしゃみをすると命が縮まるといって、「クサンメ」と唱える風習があったそうで、「苦息万命」と漢字で書かれることから、これは長寿を祈る呪文だったのかもしれません。これを、早口で何度も言うとクサメになり、さらにくしゃみに変化したそうです。

インドからは、お釈迦さまの教えだけでなく、くしゃみも一緒に伝わってきていたのですね。

～お知らせ～

この度、一月十日付けで、日野尊行承仕が札幌別院へ、四月一日付けで、阿部慶剛承仕が本山式務部へ、異動いたしました。

2002年（平成14年）年忌表

1周忌	平成13年
3回忌	平成12年
7回忌	平成8年
13回忌	平成2年
17回忌	昭和61年
25回忌	昭和53年
33回忌	昭和45年
50回忌	昭和28年

みんな仲良し 小樽幼稚園

～まことの（いのち）の保育を行います～

当園では、浄土真宗のみ教えに基づき「いのちの大切さ」「自然への感謝」「やさしい心」などを育てるような保育に努めています。
又、お絵かきや工作などのクラスでの活動の他に、プール遊びや、週に２・３回クラス合同のホールでのリズム遊びなどを通し、異年齢の交流を深めており、年長から年少までみんな仲良く遊んでいます。

４月10日（水）から、かわいらしい新入園児を迎え在園児も張り切っています。

途中入園も受け付けておりますので、ご不明な点などございましたらお気軽にお問い合わせ下さい。

又、見学もできますので、ぜひ一度お越し下さい。

- **保育時間** ▶ 月曜日～金曜日（8:40～13:30）
- **昼　　食** ▶ 毎週火曜日は、給食（パン・飲み物・デザート）で、それ以外の曜日は、お弁当です。
- **預り保育** ▶ 月曜日～金曜日（17:30迄）行います。（15:00迄は無料です）
- **プール遊び** ▶ 年間を通して、週1回温水プール遊びを行っています。
- **送迎バス** ▶ ご希望の方は、ご自宅付近まで送迎致します。
- **主な行事** ▶ 花まつり・降誕会・運動会・海水浴・親子遠足・報恩講・お遊戯会・おもちつきなど。

園児募集 途中入園可能

★募集園児　3才児（3年保育）～5才児（1年保育）

・お気軽にお問い合わせ下さい
・見学もできます

学校法人　小樽龍谷学園　　小樽市若松1丁目4番17号

小樽幼稚園　TEL 0134-22-6536

季刊　第六十号　発行者　本願寺小樽別院　発行人　片山　晃英